

三井生命は、 大樹生命へ



【経営理念】

相互扶助の精神に基づく生命保険事業の本質を自覚し、その社会的責任を全うするため、卓抜した創意とたくましい実践をもって盤石の経営基盤を確立し、会社永遠の発展を期することを決意して、ここに経営理念を定める。

1. 社会の理解と信頼にこたえる経営を力強く推進し、国民生活の福祉向上に寄与する。
1. まごころと感謝の気持をもって、常に契約者に対する最善の奉仕に徹する。
1. 従業員の能力が最高に発揮できるようにつとめるとともに、その社会生活の安定向上をはかる。

三井生命は、2015年の日本生命保険相互会社との経営統合後、商品相互供給や銀行窓販・代理店チャンネルにおける販路拡大などを進めることで、収益力・成長力の強化を図り、「保有契約年換算保険料の反転」を実現するなど、着実に統合効果をあげてきました。

2018年4月より、「再生」から「成長」ステージへの移行を目指す中期経営計画をスタートさせました。そして2019年4月、将来にわたる成長ストーリーを描くこのタイミングで、三井生命から大樹生命に社名を変更し、新社名・新ブランドで更なる成長を目指すこととしました。

新社名には、“大樹”のように「しっかりと大地に根を張り、晴れの日も雨の日もしっかりとお客さまを守り、多くの人が集まってくる保険会社を目指そう」という想いを込めています。



創業者の想いと共に・・・

「いつの時代も、お客さまのためにあれ」

初代社長団 琢磨が、国民に奉仕するという目的をもって創業時に掲げた価値観です。

大樹生命の「お客さま本位」の精神は、変わることなく誇りと伝統をもって受け継がれています。